

2.16.3. 教育活動概要

(a) 卒業論文概要

藤本 淳也	<p>ユーザの行動範囲と現在位置に対応した有意位置生成手法の提案</p> <p>携帯電話等の測位機能を用いて取得した測位点を一定範囲の円の集合として取り扱い、その地点の滞在時間や滞在頻度等といった情報からユーザに取って意味のある場所(有意位置)を見出す研究が行われてきた。本研究ではユーザの行動範囲と現在位置、また最後に訪れた日から経過した期間によって有意位置の大きさを変化させる事で、よりユーザの思い描くメンタルマップに近い有意位置の生成を行えるような手法を提案する。</p>
遠藤 斉	<p>Web サイト制作支援を目的とした Web アノテーション情報共有システム</p> <p>グループで Web ページデザインを進めていくためには、多様な情報のやりとりが必要であるため口述、紙媒体、Web 媒体などを組みあわせ情報伝達を行う必要がある。しかし、多くの手段を併用することで情報が散乱するといった問題が生じる。本論文では、この問題を解決するために、Web アノテーションを用いデザイン情報を操作、集約する機能を備えた情報共有システムを提案、構築し評価を行う。</p>
清水畑 亨	<p>ライフログのインデックスにおける音楽情報の利用可能性</p> <p>近年ビデオカメラの小型化やハードディスクの容量増加により、日々の体験を常時記録することが可能になりつつある。これらのライフログは参照したり出来事を選ぶのに手間がかかるという特徴があるため、自動でインデックスが付けられることが望ましい。そこで、楽曲に対するイメージ情報を作り出す高い効果があると言われている音楽情報に注目し、これをライフログのインデックスとして利用可能かどうか調査を行う。</p>
高橋 縁	<p>玉転がしを用いた非言語コミュニケーション</p> <p>近年、通信機器の発達により遠隔地においても容易にコミュニケーションが取れるようになった。メールや通話といった言語情報にテレビ電話のように表情やしぐさのような非言語情報が加わることで感情が伝わりやすくなる。相手が少し気になる等の何気ないコミュニケーションを行う場合は非言語情報は意識上のハードルが低く適しているといえる。本稿は手軽に何気ない気持ちやつながり感を伝え合う玉転がしコミュニケーションを提案する。</p>
深澤 岳陽	<p>本の整理により作業の効率化を補助するシステム</p> <p>共有作業スペースにおいて物品の整理整頓が行われていないことは作業非効率の一因であり、必要な共有物がどこにあり誰が持っているのか把握することは効率的に作業を行う上で重要な事である。本研究では共有スペースの本棚に着目し、RFIDを用いて書籍の管理及び整理を実現し、共有スペースにおけるユーザの作業効率を上げるとともに書籍等の入れ替え動作をスムーズに行う手法を提案、開発し、その特徴について報告する。</p>
赤間 奏見	<p>料理の彩りの変化を用いた会話行動コントロールシステム</p> <p>複数人の食事の場では、会話の占有等により良好な人間関係の構築が困難な場合がある。そこで食事と会話の行動の切り替えを自然に導くことができれば、より良い食事の場を提供できると考える。</p> <p>本研究は食事の会話行動を話者・次話者・聞き手の観点からモデル化し、それに基づき食卓上に設置したプロジェクトで料理の彩りを動的に変化させて、食事と会話の行動の切り替えを自然に導くシステムの実現を行う。</p>

石原 俊	<p>口内領域形状を利用した母音認識による携帯電話操作インタフェースの開発</p> <p>現在の携帯電話操作インタフェースには、手間や学習の必要性等の問題点がある。本研究室では、これらの問題点を解決するために読唇による母音認識を行い、携帯電話の操作コマンドと照合することで操作を可能とするインタフェースの研究を行っている。本研究では先行研究の改良を目的とし、母音認識アルゴリズムの改善、母音認識手法の変更、コマンド認識アルゴリズムの改善を行い、実用性の高いインタフェースの実現を行う。</p>
佐藤 奈摘	<p>共有ブロックを用いた実物体共有対称型遠隔地作業支援システムの実装と評価</p> <p>AR等を用いた遠隔地作業支援システムでは「指示者の物体への操作が間接的」「機器装着によるユーザへ負担」等の問題がある。この問題を解決するため本研究室では接続の感知・組み立て手順の提示が可能な物理的なブロックを双方に配置し操作することで、直感的に作業の指示・把握を可能とする共有ブロックを用いた実物体共有対称型遠隔地作業支援システムの研究を行っている。本研究ではこの改良システムを実装し評価を行う。</p>
菅原 由佳	<p>リアルタイムテレビ視聴におけるアバターコミュニケーションツールの開発</p> <p>テレビ番組の視聴形態は従来リアルタイムに複数人で視聴する形態が主であったが、録画して一人で見る人が増えている。この視聴形態では誰かと感想を共有できないため視聴行為自体に寂しさを感じてしまう。そこで本研究では同時にテレビを見ている友人のユーザをアバターとして表示することで、友人がテレビを見ているというアウェアネスを提供し、かつリアルタイムに感情を共有するコミュニケーションツールを開発し、評価を行う。</p>
津田 真佐美	<p>ユーザにスケジュール情報を気付かせるための空間を利用した情報提示システムに関する研究</p> <p>普段スケジュール管理には紙やアプリケーションを用いるが、それらには(1)スケジュールに注意を払う必要、(2)内容把握のための操作が必要、(3)内容、期日を直感的に把握できないという問題点がある。そこで、スケジュール情報を見つけるのではなく、気付かせる必要があると考えた。本研究では、常にスケジュール情報を空間へ提示し、更に提示した情報を期日に応じて移動させることにより、気付かせるシステムを提案する。</p>
藤本 菜亜子	<p>再生楽曲選択のユーザインタフェースに関する研究</p> <p>近年、コンピュータに多くの楽曲を保存し、再生できるようになった。このような環境では、明確に聴きたい曲がない場合選択肢が多すぎて選曲するのに迷ってしまうデメリットがある。それにより選曲する作業に負担がかかるようになった。そこで、再生される予定の曲をわかりやすく表示して事前にユーザが再生される曲を把握でき、ある程度の選択肢から選ぶことで負担を軽減できる音楽再生インタフェース CMusic を提案する。</p>
星 智宏	<p>動画共有サービスにおけるキーワード表示システム評価と動画の特徴を示す指標の実装</p> <p>最近、動画を取り扱う動画共有サービスが隆盛を見せている。その中でユーザが動画に投稿したコメントが表示されるニコニコ動画は、コメントの内容が視聴する動画選択に関わってくるが、動画を選択する段階ではコメントの全容を知ることができない。本研究では、動画のコメント取得解析を行い、コメント群のキーワードを表示、有用性の評価を行う。更にコメントのクラスタリングを行い、視覚的な情報を付加するシステムを実装する。</p>

(b) 博士(前期)論文概要

該当無し

(c) 博士(後期)論文概要

該当無し

(d) 講座所属学生が第一著者として査読ありの論文誌掲載論文一覧

該当無し

(e) 講座所属学生が各学会で登壇発表した実績一覧

該当無し

(f) 学生が単独で受けた受賞や表彰一覧

該当無し

2.16.4. その他の活動

該当無し